

しんまちだよりネットワーク版

🍊オレンジサロン（認知症家族介護者教室・懇談会） 報告

5月28日に認知症の家族を介護されている方や、認知症に関心のある方たち交流の場として、第2回目のオレンジサロンが開催されました。その中で、府中市認知症対策疾患医療センターの青柳センター長（認知症専門医）より「治療可能な認知症とは？認知症のお薬について」のテーマでミニ講和をいただきました。その一部をご紹介します。

認知症は現在、残念ながら「治らない病気」です。ただし、一部の脳や身体の病気のせいで認知機能低下が起こっている場合、もとの病気を治療することで認知機能も回復するという意味での「治療可能な認知症」があります。



青柳先生

治療可能な認知症・・・その1（脳が圧迫されて認知機能低下がでているケース）

頭を強く打ち、頭蓋骨と脳の間「血だまり」ができている場合→**硬膜下血腫**

脳の周囲を循環している「脳脊髄液」が増えすぎている場合→**正常圧水頭症**

※これらは脳の血だまりや脳脊髄液が脳を圧迫して認知機能低下が出ていますが、それらを取り除けば、圧迫されている脳が元にもどって、認知機能が回復します。



治療可能な認知症・・・その2（脳の働きに必要なホルモンや栄養素が不足して認知機能低下がでているケース）

①脳の働きに必要な甲状腺ホルモンが不足している場合→**甲状腺の病気**

②脳の働きに必要な栄養素（鉄、ビタミンB群等）が不足している場合→**ビタミン欠乏症**

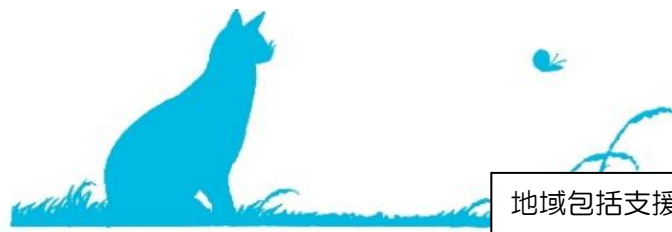
※不足しているものを補充することで、脳の機能が回復することがあります。→**アルコール中毒**など

その1、その2とも、「治療可能」なのは、手術や治療などを早めに行った場合。長期間放置すると、治療しても認知機能はもどらなくなってしまいます。そのため、認知症が疑われたら、なるべく早く専門医療機関を受診することが大事です！

認知症のお薬について・・・抗認知症薬は「認知症を治す薬」ではありません。脳の状態をもとにもどすことはできませんが、生き残っている脳細胞を活性化させることで意欲がでたり、活動的になったりする効果があります。ただし、怒りっぽくなったり、ソワソワ落ち着かなくなったりといった副作用がでることもあるので、服用する時には見極めが必要になります。お薬以外で大事なものは、「家にこもらず外出して家族以外とも話す機会を持つこと」「身体を動かす機会を持つこと」「趣味など本人の好きなことをすること」「バランスの良い食事を心がけること」。できることはなるべく自分でやり、できないことは無理やりやらせないことも、非常に重要なポイントです！！

青柳先生のミニ講話の後に、懇談会を行いました。参加者の方からは、介護をする中での工夫や思いなど、いろいろな話が出されました。認知症のことを知りたい、介護の思いを共有したい方は、ぜひオレンジサロンにおいでください。ご自身のこと、家族のこと、地域のこと、みんなで話せるといいですね！

次回のオレンジサロンは、7月23日（土）14時から包括しんまちで行う予定です。青柳先生のミニ講話のテーマは「医療・病院へのつながり方」です。興味・関心がある方や参加希望の方は、包括しんまちあてにご連絡下さい。



2022年7月11日発行

地域包括支援センターしんまち TEL042-340-5060 FAX042-340-5622
e-mail : sinmachi-kg@t-kenseikai.jp 認知症地域支援推進員 山口
ネットワーク担当 野中